石高神社報

第十三号

発行日　平成七年十二月十五日
発行者　石高神社　宮司　高原　章兆
発行所　岡山市円山八五三　石高神社

最近の修理と今後の課題

今回は最近の修理を振り返ってみました。その度に皆様のご浄財をご寄進いただき、誠にありがとうございました。

次に示しましたようにこの三十年間は屋根と石造物を中心に修理してまいりました。しかし、まだ多くの危険個所や老朽化したところがあり、次から次へといくらでも修理の必要な個所があるのが現実です。具体的には周囲の塀改修、便所の新設、社務所の再建、石造物の補修などがありますが、優先順位を決めて順次取り組んでいく予定に致しております。その節は氏子の皆様のご支援をよろしくお願い申し上げる次第でございます。

平成五年　末社屋根銅板ふき替え・新調、表の西側灯篭傾き修理、表参道玉垣応急修理　三二〇万円

平成元年　幣殿屋根ふき替え、表門東側石垣修理、社務所の取り壊し、社殿回りの一部補修、自動車参道舗装（追加分）　六二六万円

昭和六〇年　表門西側石垣修理　三七万円

昭和五八年　随身門前の玉垣修理　七〇万円

昭和五五年　釣殿・拝殿屋根ふき替え　二六八万円

昭和五〇年　随身門屋根ふき替え　三五万円

昭和四七年　本殿屋根銅板ふき替え　一二九万円

石高神社の石造物 ③

石段と玉垣

当社の表参道には全部で百六段の石段があります。石段の両側と随身門の東西には玉垣があり、多くの御寄進者の村名と名前が刻まれています。今回この御寄進者の村を調べてみましたところ、現在の氏子である赤田、清水、藤原、高屋、関、追分、澤田、当所（円山）山崎、福泊、湊、東湊、西湊、池の内の他に、倉田、倉富、倉益、川東中、二間川中、海面、四番、五番、福吉の地名も見られました。

表参道の下の方の玉垣には、「倉田氏子中」、「倉富氏子中」、「倉益氏子中」と彫られたものがあり、沖田神社が勧請されるまでは、この三ヶ村は氏子であったことがわかります。このことは、「撮要録」にも次のように載っています。「元禄八年十二月十一日　上道郡倉田倉富倉益三ヶ村只今まで同郡海面村円山村門田村御宮氏子にて御座候へ共御新田一同にて御座候へば沖田御宮氏子に惣候百姓共申度と奉願候被仰付被下候はば来正月より参詣仕度との儀　右三村之役人伺　裏書子正月二十八日願之通」

延宝七年（一六七五）に倉田新田ができたあとの天和三年（一六八三）に石高神社が現在地に遷座されました。四番、五番などの沖新田は元禄六年（一六九三）に完成し、元禄七年には新田の氏神として沖田神社が勧請されました。そして、次に倉田新田三ヵ村の氏神変更、元禄十一年の曹源寺造営とつづきます。こうした新田開発、曹源寺の造営といった一連の大事業の一部として当社の遷座、石造物の築造が行われたことがわかります。

神宮大麻初穂料の改定について

お伊勢様として知られている天照大神の御神札であります神宮大麻の初穂料が五百円から八百円になりました。一五年ぶりの改定です。氏神様の御神札とともにお祀りし、おかげをいただいてください。

境内の生物 ③ 地衣類

地衣類は藻類（クロレラ・ラン藻のなかま）と菌類（カビ・キノコのなかま）が合体してお互いに助け合って生きている共生体で、それぞれの個別の能力を越えた新しい生命体となっています。他の生物が生きていけないような北極圏や石・樹皮上に成育することができます。最近は大気汚染の指標生物としてウメノキゴケが有名です。ウメノキゴケは青みがかった白色で波うった円形をしており、当社でも天満宮の後ろのカシの木などにみられます。玉垣の石にみられる白っぽいものやオレンジ色のものも地衣類の一種です。

後記

今年は関西大地震を始め大きな地震があり、自然の驚異をまざまざと感じさせられる一年でした。しかし、自然はまたみずみずしい恵みを私達に与えてくれます。人間をも含めた自然に畏敬の念をはらいながら、新しい年がよい年になりますようにお祈り申し上げます。